SHOW-HEYシネマルーム

★★★★★

ゴールデンカムイ
網走監獄襲撃編

2026年／日本映画
配給：東宝／122分

2025（令和7）年3月20日鑑賞　　T・ジョイ梅田

Data　2026－14

監督：片桐健滋
脚本：黒岩勉
原作：野田サトル『ゴールデンカムイ』（集英社『ヤングジャンプ』コミックス刊）
出演：山﨑賢人／山田杏奈／眞栄田郷敦／矢本悠馬／工藤阿須加／柳俊太郎／塩野瑛久／大谷亮平／高橋メアリージュン／桜井ユキ／勝矢／中川大志／北村一輝／池内博之／玉木宏／舘ひろし

みどころ

私は五稜郭を2度、網走刑務所を1度見学したが、その歴史は興味深い。それ以上に興味深いのが、野田サトルの“実写化不可能”と言われた原作コミックをシリーズ化した本作だ。

“不死身の杉元”をはじめ、旧新選組の土方歳三、第七師団の鶴見篤四郎等のキャラの突出ぶりが目立つ本作は、日露戦争直後の時代設定とアイヌの莫大な埋蔵金をめぐる奇想天外なストーリーの面白さが相まって必読かつ必見！

もっとも、第1作はそんな新鮮さに驚愕したが、第2作は徹底させたキャラのバカバカしさも目立つし、アイヌ料理の紹介のくどさにもウンザリ。しかし、駆逐艦の登場にビックリなら、クライマックスに見る三つ巴の戦いのド迫力もさすが！不死身の杉元の不死身なるゆえんもしっかり見せつけてくれた上、シリーズ第3作への期待もバッチリと！

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

■□■人気コミックが映画にドラマに大展開！本作は？■□■

近時、私は帝国ホテルでのサウナからの帰り道、時々、天神橋筋商店街に4軒もある古本屋に立ち寄っている。そこで最初に購入したのは、北方謙三の『水滸伝』、『楊令伝』、『岳飛伝』だ。続いて、横山光輝の『三国志』、原泰久の『キングダム』等たくさんのコミック集を、さらに司馬遼太郎全集全50巻等も購入した。かわぐちかいじの『沈黙の艦隊』と野田サトルの『ゴールデンカムイ』は注文中だ。

『沈黙の艦隊』とともに“実写化不可能”と言われ続けていたそんな原作漫画が初めて映画化されたのが『ゴールデンカムイ』（24年）（『シネマ55』163頁）だ。私はその評論を、①「人気コミックが映画化！こりゃ必見！シリーズ化必至！」、②「二〇三高地に見る不死身の杉元の鬼神の戦いぶりは？」、③「2年後の杉元はどこに？アイヌの莫大な埋蔵金

とは？」、④「原作者は北海道出身！アシリパ一族とアイヌの生態は？」、⑤「壮大な世界観（1）陸軍第七師団が登場！それはなぜ？」、⑥「壮大な世界観（2）新撰組副長、土方歳三も登場！」、⑦「白石は脱獄囚なのに、なぜ杉元の協力者に？」の小見出しで書き、最後は「第 2 作の展開は？新キャラは？乞うご期待！」で締めくくった。その後 TV ドラマの製作等を経て、今般「第 1 部完結編」ともいえるシリーズ第 2 作たる本作が大公開！こりゃ必見だ！

■□■テーマは網走監獄襲撃！それを目指す三つ巴の集団は？■□■

第 1 作では、時代背景と不死身の杉元（山﨑賢人）、アイヌの娘・アシリパ（山田杏奈）をはじめとする多くの登場人物のキャラが紹介される中、本作の大テーマが「アイヌの莫大な埋蔵金（の争奪戦）」であること、そして、そのありかが網走監獄から脱走した囚人たちの入れ墨に刻まれていることが明らかにされた。そこで勃発したのが“入れ墨囚人争奪戦”だが、もともとそれを狙っていたのが、第七師団組の鶴見篤四郎（玉木宏）と旧新撰組の土方歳三（舘ひろし）一派。そして、そこに「新規参入」したのが、アシリパと白石由竹（矢本悠馬）たちが協力している“不死身の杉元”という構図になる。

第七師団は日露戦争を戦い抜いた大日本帝国陸軍の生き残りだからその実力は折り紙付き。その上、鶴見と彼を慕う兵士たちは、北海道での軍事政権樹立という大目標に向かって突き進んでいたから、その一致した力はものすごいものがある。鶴見の階級は中尉だが、その部下たち、すなわち、鶴見中尉の側近である第七師団軍曹・月島基（工藤阿須加）、双子の弟・陽平の仇である杉元を恨んでいる第七師団一等卒・二階堂浩平（柳俊太郎）、両頬にあるホクロが特徴の第七師団上等兵・宇佐美時重（稲葉友）、等、それぞれキャラが濃く、血気盛んな、悪く言えば狂人じみた若者たちばかりだから、かなり不気味だ。

他方、戊辰戦争を生き延び、網走監獄から脱獄した土方歳三の下には、元新撰組の永倉新八（木場勝己）はもとより、利害が一致する囚人たちも加わり、蝦夷共和国建国という大目標の下に埋蔵金を狙っているのだから、こちらの力も半端ないのは当然だ。さらに、第 1 部で見たアシリパの父親ウイルク（井浦新）は温厚で優しいアイヌの部族長だが、彼の旧友のキロランケ（池内博之）は、今でこそ杉本とアシリパに協力しているものの、その腹の底は見えないから、何やら不気味だ。

埋蔵金を埋めた物語のキーマンは“のっぺら坊”だが、本作では「のっぺら坊はアシリパの父親だ」との証言が出てきたから、アレレ、アレレ・・・。そんな状況下、白石やキロランケたちの協力を得ている杉元は、アシリパと共に網走監獄に向かったが・・・。

■□■キャラの徹底は面白いが、バカバカしさも？■□■

漫画ではストーリーも大切だが、それ以上に主役をはじめとする登場人物たちのキャラの突出が大切。その点は『沈黙の艦隊』をみても『キングダム』をみても明らかだが、『ゴールデンカムイ』では主役を張る“不死身の杉元”をはじめ、その良きライバルとなる、①旧新撰組の土方歳三、②第七師団の鶴見篤四郎のキャラも負けず劣らず突出している。

そのため、第 1 作の評論では、「壮大な世界観（1）陸軍第七師団が登場！それはなぜ？」、「壮大な世界観（2）新撰組副長、土方歳三も登場！と書いてその世界観を絶賛した。しかし、TV ドラマを数回観た上、シリーズ第 2 作である本作でその濃いキャラをずっと観ていると、面白いと思う反面、多少バカバカしさも・・・。

他方、第 1 作から私があまり気に入らないのは、アシリパ役の山田杏奈。私が大好きだった女優・宮﨑あおいは現在 NHK 大河ドラマ『豊臣兄弟』でお市役を演じているが、私の独断と偏見によれば、個性派女優の宮﨑あおいには絶世の美女だったというお市役は無理。しかし、デビュー直後の宮﨑あおいなら本作のアシリパ役にピッタリだと私は思うのだが・・・。

■□■アイヌ料理の大公開にはいささかウンザリ！■□■

北海道には海の幸がたっぷり！北海道名物のシャケをはじめ、アイヌ料理には珍しく美味なものがたっぷり揃っているはずだ。そのため、第 1 作でも、杉元とアシリパが協力関係を深めていく中、アシリパが次々と杉元に対してアイヌ料理を紹介し、そのお返しとして（?）杉元もアシリパに対して日本の味噌を紹介していたが、アイヌ人に味噌は受け付けられなかったようだ。

そんな漫画のようなショートストーリーは、第 1 作の壮大なストーリーの中ではちょっとした息抜きとしての功用を持っていた。本作ではクライマックスたる「網走監獄襲撃」に向けて、杉元とアシリパが白石由竹たちと共闘を重ねていく姿が描かれるが、その中で、①ラッコ鍋、②鮭のチタタプ、③チポロサヨ＆チポロラタシケプという 3 つのアイヌ料理が詳しく紹介される。パンフレットにもその詳しい紹介や、フードコーディネーター・はらゆうこ、アイヌ料理監修・三神直美の解説が掲載されている。しかし、本作でここまでアイヌ料理を重視する必要があるの？

食べることしか興味のない私には、本作にみるアイヌ料理の詳しい紹介とそれにまつわる会話の多さは、いい加減うんざり。

■□■五稜郭 VS 網走監獄！その戦略性と構造に注目！■□■

私は函館の五稜郭を 2 度見学したが、その戦略性と構造は興味深かった。また、私は網走刑務所も 1 度だけ見学したが、そこでは高倉健主演の『網走番外地』（65 年）を思い出しつつ、特別な戦略性と構造を感じることはなかった。

しかし、本作のパンフレットにある「GOLEN KAMUY DESIGN 美術×CG・VFX 篇」を見ると、そこには興味深いたくさんの解説がある。網走監獄の前を網走川が流れていること、その網走監獄に入るには網走川にかかる鏡橋を渡る必要があることは、私も見学時に確認できた。しかし、網走監獄全体が五翼放射状平屋舎房になっていることや、中央見張り所の存在は私には全くわからなかった。また、内部の教誨堂や渡り廊下等はとても、とても・・・。しかし本作を見ていると、網走監獄の戦略性や構造がよくわかる上、パンフレットを見ればその全体像が全て明らかになるから素晴らしい。

さらに私がびっくりしたのは、駆逐艦の登場だ！榎本武揚が立てこもった五稜郭を幕府の海軍が艦砲射撃で攻撃したことは私もよく知っているし、本作のスクリーン上にも登場するが、まさか網走監獄を駆逐艦が艦砲射撃するとは！

■□■のっぺら坊の攻防戦は？誰が見方で誰が敵？■□■

日本でも「孫氏の兵法」は有名だし、その考え方はあらゆる分野で根強く残っている。また、「敵の敵は味方」とか「離間の計」等の“教え”は、中華を統一した始皇帝の誕生（B.C.221 年）以前の、中国の春秋戦国時代（B.C.770 年～B.C.221 年）に生まれ育った、孔子・老子・荘子・墨子・孟子・荀子等の「諸子百家」が生んだものだ。本作を見ていると、網走監獄を襲撃する目的が、すべての謎を知るのっぺら坊の争奪戦であることは分かるものの、誰が味方で誰が敵かさっぱりわからない“三つ巴の戦い”になるので、その展開を「諸子百家」のさまざまな教えを見い出しながらしっかり注目したい。

さらに注目すべきは、土方歳三の部隊は土方の下に、第七師団は鶴見篤四郎の下に指揮命令系統が明確だが、杉元とアシリパの下に参集している、天才脱獄犯の白石由竹（矢本悠馬）、凄腕スナイパーの尾形百之助（眞栄田郷敦）、マタギの谷垣源次郎（大谷亮平）、アシリパの父の旧友キロランケ（池内博之）らは単なる“寄せ集め”だ。したがって、そのすべてがその本性を明らかにしていないため、その内部では、なお誰が味方で誰が敵かわからない状態だ。

本作ラストに訪れる、網走監獄を舞台としたそんな三つ巴の戦いは迫力満点だが、そこで初めて明かされる、のっぺら坊の正体とは？また、そこでのっぺら坊との面会を果たしたアシリパは、彼を父親と認めるの？それとも・・・？そんなことを考えていると、網走監獄襲撃で勝利した杉元がのっぺら坊と 2 人だけで話し合っている時に、のっぺら坊に続いて杉元まで狙撃されて倒れてしまったからビックリ！一流のスナイパーの銃で撃たれたら、いくら不死身の杉元でもアウト！誰もがそう思ったが、そのスナイパーとは一体誰？もっとも、まさかシリーズ第 2 作で主人公がホントに死んでしまうことなどありえないのは当然だ。したがって、驚異的な身体の回復能力を示す杉元の姿を含めて、そこらあたりの展開は決して口外できないので、あなた自身の目でしっかりと！

しかして、本作のクライマックスで見事に杉元らにのっぺら坊を奪われてしまった土方歳三や第七師団の鶴見篤四郎たちの次なる狙いは？本作ラストではシリーズ第 3 作の舞台が樺太になることが予告されるので、そんな第 3 作の展開に期待！

2026（令和 8）年 3 月 24 日記